

小川町 地場産バイオガスプラントと液肥利用の農場

県と共催の「エコ・リサイクル交流集会2007」が、今年2月3日に開かれました。基調講演と第3分科会の講師をつとめていただいたのが、小川町のNPO 小川町風土活用センター（ふうど）のお二人です。

そこでは、NPO ふうどの生ごみ資源化のための「地場産バイオガスプラント」建設に至るまでの経過やとりくみ方針、資金調達などを語っていただきました。

《主な経過》・・・バイオマスフォーラム in 小川2007資料より抜粋

- 1999. 7 「小川町環境基本計画策定町民協議会」委員が公募され、41名の町民が参加して、100数回の会議を重ねる。生ごみ資源化の町民提案がある。
- 2001. 5 小川町下里に小川町自然エネルギー研究会が実証プラント建設 東小川団地、みどりが丘団地などの家庭100世帯の生ごみ収集資源化
- 2004. 5 NPO ふうど定期総会で新たに地場産バイオガスプラント建設のために、apバンクよりの融資と市民出資ファンドを作ることを決定
- 2006. 2 地場産バイオガスプラント 上横田地区に建設はじまる
- 2006. 6 地場産バイオガスプラント 生ごみ資源化稼働はじまる。家庭の生ごみのほか、学校給食残菜・食べ残し（300世帯分）が加わる。

以下は、2月9日、10日、小川町で開かれた「バイオマスフォーラム in 小川2007」の2日目の見学会に参加して撮影したものです。

写真 H19.2.10 撮影



地場産バイオ
ガスプラント
の全景



地場産バイオガスプラントの装置の一部分



持ち込まれた学校給食残菜



町内には多くのバイオガス液肥利用農家がある。NPOふうどでは埼玉県農林総合研究センターの協力を得て、液肥の施用方法確立のための圃場試験をおこなっています。

小川町には、有機農業にとりくむ農業者が（約25名）より環境にやさしい循環型農業、地産地消（小規模分散型）、自然エネルギーなど多角的にとりくんでいます。

ホームページアドレス <http://www.foodo.org/>



小川町にある古くからの造り酒屋 古い蔵の一部に有機野菜をとり入れたお食事処をはじめている 地域循環の輪がひろがりつつある